美しいひびき、感動にみちた
音楽との出会いをお届けします。

エリック・カール
『うたが みえる きこえるよ』1982年
™ & © 2025 Penguin Random House LLC. All rights reserved.

ROHM
SEMICONDUCTOR

RMF＆山田和樹 グローバル プロジェクト

CBSO

City of Birmingham Symphony Orchestra

Kazuki Yamada, Music Director

Japan Tour 2025

バーミンガム市交響楽団

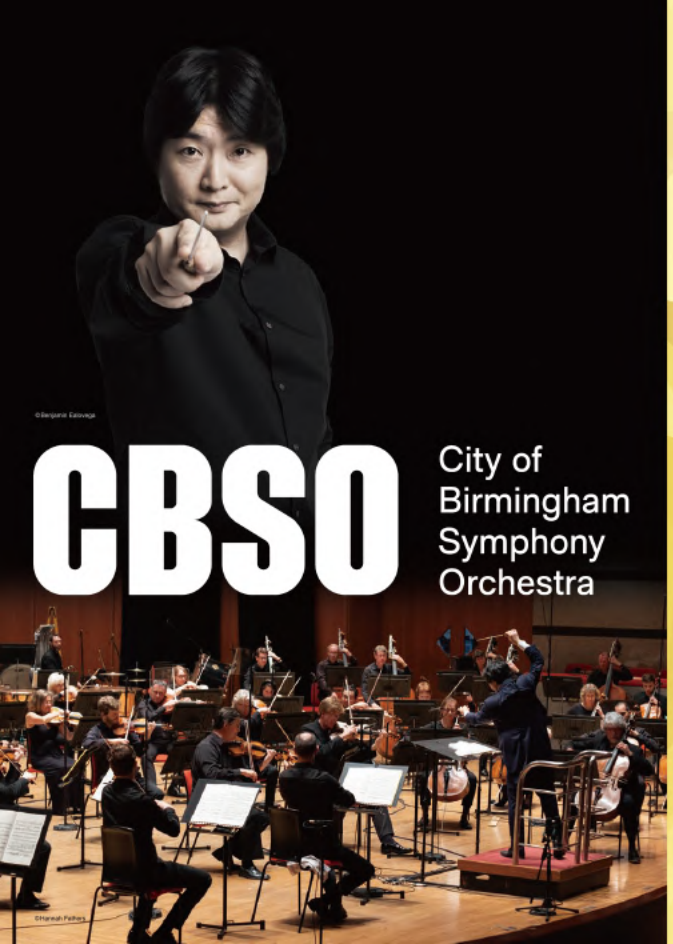
音楽監督：山田和樹

～2025年 日本公演

Rohm Music Foundation
ロームミュージック ファンデーション

ROHM
SEMICONDUCTOR

© Andrew Fox



ごあいさつ

この度は、「RMF&山田和樹 グローバル プロジェクト 山田和樹指揮 バーミンガム市交響楽団」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションとローム株式会社は、音楽を通して豊かな文化を作ることを目的にさまざまな音楽文化支援活動を継続的に実施しており、特に音楽を学ぶ若い人達の環境の充実のための奨学援助や学ぶ機会の提供などに力を入れてきました。

このような若手音楽家育成事業で関わり、現在国内外で活躍する音楽家を「ローム ミュージック フレンズ」と呼び、山田和樹氏もそのおひとりです。

固定観念に囚われない新たな発想を生み出す山田和樹氏とともに、日本の音楽家が今よりも更に世界中で活躍する未来を作るため、このプロジェクトを立ち上げました。

今回の公演も、日本人若手音楽家がオーケストラのゲストメンバーとして参加し、さらにアシスタント指揮者のツアー帯同も実施しています。

名門オーケストラが奏でる素晴らしい音楽をお楽しみいただくとともに、若手音楽家の活躍にご期待ください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
ローム株式会社

山田和樹 指揮 バーミンガム市交響楽団

2025年 日本公演

City of Birmingham Symphony Orchestra

Kazuki Yamada, Music Director

Japan Tour 2025

6.30 月 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

June 30 Mon. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

ショスタコーヴィチ：祝典序曲 イ長調 Op.96

D. Shostakovich: Festive Overture in A major, Op.96

エルガー：チェロ協奏曲 ホ短調 Op.85 [チェロ：シェク・カネー＝メイソン]

E. Elgar: Cello Concerto in E minor, Op.85 [Cello: Sheku Kanneh-Mason]

第1楽章：アダージョ ― モデラート	1st Mov.: Adagio ― Moderato
第2楽章：レント ― アレグロ・モルト	2nd Mov.: Lento ― Allegro molto
第3楽章：アダージョ	3rd Mov.: Adagio
第4楽章：アレグロ ― モデラート ― アレグロ・マ・ノン・トロッポ	4th Mov.: Allegro ― Moderato ― Allegro ma non troppo

ムソルグスキー（ヘンリー・ウッド編曲）：組曲『展覧会の絵』

M. Mussorgsky/arr. Henry Wood: Suite "Pictures at an Exhibition"

7.1 火 19:00 東京 サントリーホール

July 1 Tue. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ラヴェル：ラ・ヴァルス

M. Ravel: La Valse

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18 [ピアノ：河村尚子]

S. Rachmaninov: Piano Concerto No.2 in C minor Op.18 [Piano: Hisako Kawamura]

第1楽章：モデラート	1st Mov.: Moderato
第2楽章：アダージョ・ソステヌート	2nd Mov.: Adagio sostenuto
第3楽章：アレグロ・スケルツァンド	3rd Mov.: Allegro scherzando

チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 Op.64

P. I. Tchaikovsky: Symphony No.5 in E minor, Op.64

第1楽章：アンダンテ ― アレグロ・コン・アニマ	1st Mov.: Andante ― Allegro con anima
第2楽章：アンダンテ・カンタービレ	2nd Mov.: Andante cantabile
第3楽章：アレグロ・モデラート	3rd Mov.: Allegro moderato
第4楽章：アンダンテ・マエストーソ ― アレグロ・ヴィヴァーチェ	4th Mov.: Andante maestoso ― Allegro vivace

7.2 水 19:00 東京 サントリーホール

July 2 Wed. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ショスタコーヴィチ：祝典序曲 イ長調 Op.96

D. Shostakovich: Festive Overture in A major, Op.96

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第4番 ト短調 Op.40 [ピアノ：イム・ユンチャン]

S. Rachmaninov: Piano Concerto No.4 in G minor, Op.40 [Piano: Yunchan Lim]

第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ	1st Mov.: Allegro vivace
第2楽章：ラルゴ	2nd Mov.: Largo
第3楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ	3rd Mov.: Allegro vivace

ムソルグスキー（ヘンリー・ウッド編曲）：組曲『展覧会の絵』

M. Mussorgsky/arr. Henry Wood: Suite "Pictures at an Exhibition"

7.5 土 15:00 京都 ロームシアター京都 メインホール

July 5 Sat. 15:00 Kyoto ROHM Theatre Kyoto Main Hall

ショスタコーヴィチ：祝典序曲 イ長調 Op.96

D. Shostakovich: Festive Overture in A major, Op.96

エルガー：チェロ協奏曲 ホ短調 Op.85 [チェロ：シェク・カネー＝メイソン]

E. Elgar: Cello Concerto in E minor, Op.85 [Cello: Sheku Kanneh-Mason]

第1楽章：アダージョ ― モデラート	1st Mov.: Adagio ― Moderato
第2楽章：レント ― アレグロ・モルト	2nd Mov.: Lento ― Allegro molto
第3楽章：アダージョ	3rd Mov.: Adagio
第4楽章：アレグロ ― モデラート ― アレグロ・マ・ノン・トロッポ	4th Mov.: Allegro ― Moderato ― Allegro ma non troppo

ムソルグスキー（ヘンリー・ウッド編曲）：組曲『展覧会の絵』

M. Mussorgsky/arr. Henry Wood: Suite "Pictures at an Exhibition"

主催：公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション / ジャパン・アーツ
特別協賛：ローム株式会社 後援：ブリティッシュ・カウンシル

山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団 2025年日本公演

6月28日（土）名古屋 愛知県芸術劇場コンサートホール 主催：CBCテレビ ◆
6月29日（日）西 宮 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール 主催：兵庫県/兵庫県立芸術文化センター ★
6月30日（月）東 京 東京オペラシティ コンサートホール 主催：(公財)ローム ミュージック ファンデーション/ジャパン・アーツ ○
7月1日（火）東 京 サントリーホール 主催：(公財)ローム ミュージック ファンデーション/ジャパン・アーツ ★
7月2日（水）東 京 サントリーホール 主催：(公財)ローム ミュージック ファンデーション/ジャパン・アーツ ◆
7月4日（金）福 岡 アクロス福岡 シンフォニーホール 主催：(公財)アクロス福岡/読売新聞社/FM FUKUOKA/ジャパン・アーツ ◆
7月5日（土）京 都 ロームシアター京都 メインホール 主催：(公財)ローム ミュージック ファンデーション/ジャパン・アーツ ○
7月6日（日）横 浜 横浜みなとみらいホール 主催：神奈川芸術協会 ◆

○シェク・カネー＝メイソン（チェロ） ★河村尚子（ピアノ） ◆イム・ユンチャン（ピアノ）

山田和樹（指揮 / バーミンガム市交響楽団 音楽監督）

Kazuki Yamada, Conductor
Music Director of City of Birmingham Symphony Orchestra

©Benjamin Ealovega

2009年第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。2012年～2018年スイス・ロマンド管弦楽団の首席客演指揮者、2016/17シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団首席指揮者兼アーティスティックアドバイザーを務め、その後、2024年5月には同団音楽監督に就任。2026/2027シーズンより、ベルリン・ドイツ交響楽団首席指揮者兼芸術監督に就任予定。日本では、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シンフォニエッタの音楽監督として活動、2026年4月1日より東京芸術劇場の芸術監督（音楽部門）に就任予定。

サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団への定期的な客演のほか、近年は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、スウェーデン放送交響楽団、クリーヴランド管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、サンフランシスコ交響楽団にデビュー。

教育活動にも熱心で、小澤征爾スイス国際アカデミーに毎年ゲスト・アーティストとして招かれている。また、バーミンガム市交響楽団のアウトリーチ・プログラムにも力を入れている。

東京藝術大学指揮科で松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。ローム ミュージック ファンデーション音楽在外研究生として渡欧。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、実行委員会代表を務めた『柴田南雄生誕100年・没後20年記念演奏会』が平成28年（2016年）度文化庁芸術祭大賞、日本フィルハーモニー交響楽団と3年に亘り行った『山田和樹マーラー・ツィクルス』が第67回（2017年）芸術選奨文部科学大臣新人賞、第56回サントリー音楽賞など受賞多数。2022年には、モナコ公国からシュバリエ文化功労勲章を受章。本質に迫るとともにファンタジーあふれる音楽づくり、演奏家たちと一体になって奏でるサウンドは、音楽の喜びと真髄を客席と共有し熱狂の渦に巻き込む。名実ともに日本を代表する人気マエストロである。はだのふるさと大使。ベルリン在住。

Kazuki Yamada

バーミンガム市交響楽団

City of Birmingham Symphony Orchestra

©Hannah Fathers

バーミンガム市交響楽団（CBSO）は、バーミンガムを本拠地とする国際的に著名なオーケストラである。音楽監督の山田和樹が率いる90人の優れた音楽家たちからなるファミリーは、バーミンガム市民やウェスト・ミッドランズ州をはじめ、世界中の人々に刺激的な音楽体験を届けることに誇りを持って活動している。

バーミンガムのシンフォニー・ホールを本拠地として、同市やイギリス全土、および世界各地で、毎年150回以上のコンサートを行い、古典から現代音楽、サウンドトラックから交響曲まで、そしてその中間に位置するあらゆる種類の音楽を演奏している。広範囲に及ぶコミュニティと教育プログラムと同時に、合唱団やユース・アンサンブルを有し、ミッドランズの音楽制作のあらゆる側面に100年以上にわたり携わってきた。

この長い伝統は、1920年にサー・エドワード・エルガーの指揮で行われたオーケストラ初のシンフォニック・コンサートから始まった。それ以後も、戦争、不況、社会の変化、市政の刷新などを経て、CBSOは"バーミンガムのオーケストラ"としての誇りを持ち続けている。エイドリアン・ボールト、ジョージ・ウェルドン、アンジェイ・パヌフニク、そしてルイ・フレモーなどの首席指揮者たちのもと、芸術的に高く評価され、その名声はミッドランズを越え、広く知られるようになった。さらに国際的に広く知られるようになったのは、1980年に若きイギリス人指揮者サイモン・ラトルを見出したことがきっかけであり、芸術が都市全体に新たな方向性をもたらし得ることが示された。

ラトルに続き、サカリ・オラモとアンドリュス・ネルソンスも国際的な評価を確固たるものにするのに貢献し、バーミンガムのために旗を振るというCBSOの伝統にさらなる磨きをかけた。そして、ミルガ・グラジニーテ＝ティラのリーダーシップのもと、素晴らしい音楽をバーミンガム、ミッドランズ、そして世界の人々のために奏でるというオーケストラが得意とする分野での実績を積み重ねている。

2023年4月、日本人指揮者の山田和樹が首席指揮者兼アーティスティックアドバイザーに就任。2024年5月からは音楽監督に就任し、彼の指揮のもと、オーケストラは音楽の喜びとバーミンガムの魅力を広く伝えながら、すべての人が楽しめる、忘れがたい音楽体験を創造し続けている。

City of Birmingham Symphony Orchestra

City of Birmingham Symphony Orchestra

Kazuki Yamada, Music Director

Violin 1
Eugene Tzikindelean
Jonathan Martindale
Phil Brett
Sasha Raikhlina
Jane Wright
Nathan Bomans
Richard Thomas
Mark Robinson
Bethan Allmand
Cathy Chambers
Kath Gittings
Wendy Quirk
Alicia Berendse
Angus Bain
Luke Coomber
Anais Boyadjieva
★Asako Fukuda (7/1)

Violin 2
Lowri Porter
Kate Oswin
Moritz Pfister
Amy Jones
Liz Rossi
Gabriel Dyker
Bryony Morrison
Georgia Hannant
Tim Birchall
Tam Mott
Yuriko Matsuda
Beatriz Carbonell
Adam Hill
Henry Salmon
★Asako Fukuda (6/30,7/2,7/5)

Viola
Chris Yates
Adam Romer
David BaMaung
Michael Jenkinson
Catherine Bower
Sarah Malcolm
Jessica Tickle
Amy Thomas
Isobel Doncaster
Mabon Rhyd
Abby Bowen
Henrietta Ridgeon

Cello
Eduardo Vassallo
Arthur Boutillier
David Powell
Miguel Fernandes
Catherine Ardagh-Walter
Helen Edgar
Sarah Berger
Jonathan Pether
Lorenzo Mesegeur
Abigail Hyde-Smith

Double Bass
Anthony Alcock
Julian Atkinson
Jeremy Watt
Mark Goodchild
Julian Walters
Matiu Gaffney
Aisling Reilly
Tom Neil

Flute
Marie-Christine Zupancic
Veronika Klirova

Piccolo
Helen Benson

Oboe
Martin Danek
Emmet Byrne

Cor Anglais
Rachael Pankhurst

Clarinets
Oliver Janes
Joanna Patton

Bass Clarinet
Mark O'Brien

Bassoon
Nikolaj Henriques
Tony Liu

Contrabassoon
Margaret Cookhorn

Horn
Elspeth Dutch
Neil Shewan
Mark Phillips
Jeremy Bushell
Alex Harris

Trumpet
Jason Lewis
David Hilton
Kaitlin Wild
Jonathan Quirk
Rob Johnston

Trombone
Richard Watkin
Anthony Howe
Andy Cole

Bass Trombone
David Vines

Tuba
Daniel Trodden
Gemma Riley

Timpani
Matthew Hardy

Percussion
Adrian Spillett
Andrew Herbert
Toby Kearney
Barnaby Archer
Iris van den Bos
Mark Norman

Harp
Katherine Thomas
Mary Reid

Assistant Conductor
★Shinnosuke Ito

★: supported by
RMF & Kazuki Yamada Global Project

『展覧会の絵』オルガン	笹岡めぐみ (6/30)、大木麻理 (7/2)、都築由理江 (7/5)
『展覧会の絵』鐘の音 監修	有馬純寿、麻生海晋
「祝典序曲」バンダ	千葉県立幕張総合高等学校 [顧問：伊藤巧真、事前指導：井出奏] (6/30,7/2) 京都両洋高等学校吹奏楽部 [音楽監督：藤重佳久、事前指導：境田栄斗] (7/5)

Profile

シェク・カネー＝メイソン (チェロ)
Sheku Kanneh-Mason, Cello

©Ollie Ali

チェリスト、シェク・カネー＝メイソンは、「すべての人に音楽を」という強い信念のもと、学校のホールから世界的なコンサートホールまで多様な舞台で音楽の魅力を伝えている。

2024/25シーズンはベルリンのコンツェルトハウスのアーティスト・イン・レジデンス、ルツェルン・フェスティバル2024のアーティスト・エトワールを務める。またヤクブ・フルシャ、セミヨン・ビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団とのツアー、パーヴォ・ヤルヴィ指揮チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、クリスティアン・マチェラル指揮ケルン放送交響楽団、レナード・スラットキン指揮リヨン国立管弦楽団、ジョン・ウィルソン指揮シンフォニア・オブ・ロンドンとのイギリス・ツアー、クリストフ・エッシェンバッハ指揮SWRシュトゥットガルト放送交響楽団、カメラータ・ザルツブルクとのツアー、マンフレート・ホーネック指揮ピッツバーグ交響楽団、ステファン・ドゥネーヴ指揮ニューワールド交響楽団、ヤニック・ネゼ＝セガン指揮フィラデルフィア管弦楽団、山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団と共演する。

ピアニストの妹イサタとのデュオ活動では、カーネギーホールでのデビューリサイタルを行い、ナタリー・クルーダの新作を含むプログラムを披露する。その他ボルドー、ローマ、シンシナティ、トロント、フィラデルフィア、ダブリン、ミュンヘン、ベルリンなど各地で公演を行う。

ギタリストのプリニオ・フェルナンデス、ジャズピアニストのハリー・ベイカーとも共演。2017年以降毎年BBCプロムスに出演し、2023年にはラスト・ナイトのソリストを務めた。

デッカ・クラシックスのアーティストとして、2024年5月にはベートーヴェン：三重協奏曲（ニコラ・ベネデッティ、ベンジャミン・グローヴナー、フィルハーモニア管弦楽団、サントゥ＝マティアス・ロウヴァリ指揮）をリリース。2022年のアルバム「Song」、2020年の「エルガー」（全英アルバムチャート8位）も高い評価を得ている。

英国王立音楽院の卒業生であり、2022年には同音楽院初のメニューイン・客員演奏メンター教授に就任。2020年にMBEを受章。2018年のロイヤルウェディングでの演奏は世界中で注目された。1700年製マッテオ・ゴフリラーのチェロを無期限で貸与されている。

Sheku Kanneh-Mason

河村尚子（ピアノ）
Hisako Kawamura, Piano

©Marco Borggreve

ハノーファー国立音楽芸術大学在学中の2006年ミュンヘン国際コンクール第2位受賞。翌年、クララ・ハスキル国際コンクールにて優勝を飾り、大器を感じさせる新鋭として世界の注目を浴びる。ドイツを拠点に、ヨーロッパ、ロシア、日本などで積極的にリサイタルを行う傍ら、ウィーン交響楽団、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団などのソリストに迎えられている。また室内楽では、ハーゲン・クァルテットの名チェリスト、C.ハーゲンとのデュオで好評を得ているほか、M.ホルヌング（チェロ）とロンドン・ウィグモアホール、R.オルテガ・ケロ（オーボエ）とニューヨーク・カーネギーホールにデビューするなど、同世代の実力派アーティストとも積極的な活動を展開している。

日本ではパーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団など国内主要オーケストラと共演を重ねる傍ら、マレク・ヤノフスキ指揮ベルリン放送交響楽団、イルジー・ビエロフラーヴェク指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団等の日本ツアーに参加。

文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞、新日鉄音楽賞、出光音楽賞、日本ショパン協会賞、井植文化賞、ホテル・オークラ賞、2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞独奏・独唱部門賞、第12回CDショップ大賞2020・クラシック賞、第51回サントリー音楽賞を受賞。

主なCDに「ショパン：ピアノ・ソナタ第3番＆シューマン:フモレスケ」「ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番&チェロ・ソナタ」「ショパン:24の前奏曲&幻想ポロネーズ」。2019年より「月光」「悲愴」「熱情」を含むベートーヴェンのCDをリリース。また、国際ピアノ・コンクールにおける若者たちの群像劇をリアルに描いた、作家・恩田陸の直木賞受賞小説を原作とした映画『蜜蜂と遠雷』（2019年10月公開）において主人公・栄伝亜夜のピアノ演奏を担当した。2024年はデビュー20周年を迎え、9月に記念のツアーを行い、最新譜「20-Twenty」をリリース。

これまで、ウラディーミル・クライネフ、澤野京子、マウゴルジャータ・バートル・シュライバーの各氏に師事。ドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学教授、東京音楽大学特任講師。2007-2008年度ローム ミュージック ファンデーション奨学生。

Hisako Kawamura

イム・ユンチャン（ピアノ）
Yunchan Lim, Piano

©James Hole

2022年第16回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて、史上最年少でゴールド・メダルを受賞、併せて聴衆賞、最優秀新曲演奏賞を受賞。

その演奏から現れる「魔法のような力」と「自然で本能的な質」（ラ・セーナ）で、世界中の聴衆を驚嘆させ、わずか18歳で、流星のように国際的スターダムに駆け上がった。決勝で演奏したラフマニノフのピアノ協奏曲第3番は、コンクールの中で最も話題を呼んだ。その演奏動画はYouTubeを介し世界中で1500万回以上も視聴され、アップされた同曲の中で最も多い視聴回数を誇る。

2024/25シーズンの主な活動には、ワシントン・ナショナル交響楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン放送交響楽団、ベルリン放送交響楽団、ケルン放送交響楽団との初共演の他、ニューヨーク・フィルハーモニック、ルツェルン交響楽団、パリ管弦楽団との再共演が含まれる。また今シーズンはケネディ・センターのリサイタル・デビュー、カーネギー・ホールへの再出演もある。

デッカ・クラシックス専属アーティストとして、初のスタジオ・アルバム「ショパン：練習曲集 作品10＆25」は、韓国でダブル・プラチナを達成し、世界中のクラシック・チャートで1位になった。このアルバムはピアノ部門の2024年のグラモフォン賞を獲得し、ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤーに選ばれた。それ以前にリリースした作品には、同じく2024年のグラモフォン賞にノミネートされたクライバーン・コンクールでのリストの超絶技巧練習曲（スタインウェイ＆サンズ）、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」（ユニバーサル・ミュージック・グループ）、KBSの「2020韓国の若き音楽家達」出演のアルバムが含まれる。2024年1月よりアップル・ミュージック・クラシカルのグローバル・アンバサダーを務めている。

韓国の始興市生まれ。7歳でピアノを始め、翌年にソウル・アーツ・センターの音楽アカデミーに入学。13歳で韓国芸術英才教育院のオーディションに合格し、教師・指導者のソン・ミンスに出会う。韓国国立芸術大学の2年を修了し、現在はニューイングランド音楽院でソン・ミンスの下で学んでいる。

Yunchan Lim

曲目解説

寺西 基之（音楽評論家）
Motoyuki Teranishi

山田和樹の躍進ぶりは目を見張るものがある。昨年のシカゴ交響楽団デビューに続き、今年はベルリン・フィルにデビュー、さらに2026/27シーズンからベルリン・ドイツ交響楽団の首席指揮者兼芸術監督に就任することも発表された。まさに飛ぶ鳥落とす勢いの活躍によって"世界のヤマダ"としての存在感を高めているが、類い稀なセンスと発想の豊かさ、楽員の自発性を引き出しながらオケと一体となってフレッシュな音楽を生み出す力量をみれば、それも当然だろう。現在音楽監督を務めるバーミンガム市交響楽団との今回の日本ツアーでも、まさに蜜月関係にあるこの楽団からオリジナリティに満ちた音楽を引き出してくれるに違いない。『展覧会の絵』を通常のラヴェル編曲版ではなく、ヘンリー・ウッドによるきわめて個性的な編曲版で取り上げるところも彼らしいといえよう。

ショスタコーヴィチ：祝典序曲 イ長調 Op.96

旧ソ連に生きたドミトリー・ショスタコーヴィチ（1906－75）のこの演奏会用序曲は1954年に発表されている。この年の第37回革命記念日のために僅か3日間で書かれたといわれるが、すでに1947年の革命記念日のために書いてあったものを改作したという説もあり、また1952年のドン＝ヴォルガ運河開通記念のために作曲されたとする説もあるなど、成立事情に不明な点が多い。明快さの支配する文字通り祝典的な曲で、1954年に書かれたとすれば前年のスターリン死去に伴ってソ連が新体制に移行した時期にあたっており、恐怖政治後の明るい新時代の到来の願いがその明朗な華やかさのうちに込められているのかもしれない。トランペットのファンファーレ（娘ガリーナのために書いたピアノ小品「誕生日」の引用）で始まり、クラリネットの明るい主題（オラトリオ「森の歌」の旋律の引用）やチェロとホルンの朗々たる主題によって晴れやかに発展、別隊のブラス・バンドも加わったファンファーレで頂点を築き、輝かしく全曲を閉じる。

ラヴェル：ラ・ヴァルス

近代フランスの作曲家モーリス・ラヴェル（1875－1937）は鋭い音感覚で新しい音楽を求めたフランスの作曲家だが、興味深いことにウィンナ・ワルツを好んでいた。そのことは1920年に書かれた管弦楽のための「ラ・ヴァルス」に示されており、彼自身この曲について、「ウィンナ・ワルツの楽章。渦巻く雲の切れ目からワルツを踊る人々が垣間見え、雲が散ると、回る多くの人で満ちた大広間が見えてくる。場は次第に明るくなり突然フォルティッシモでシャンデリアが輝く。1855年頃の皇帝の宮廷」と解説しているとおり、混沌とした響きの中からワルツが徐々に浮かび上がって発展し、輝かしい頂点に至るという構成で書かれている。もっともここで表現されているのは、古き良きウィンナ・ワルツそのままでなく、世紀末的官能性やグロテスクな不安感すら感じさせるもので、第一次大戦後の不安定な時代に生きるフランス人から見た19世紀ウィーンの幻想ともいうべき曲となっている。

エルガー：チェロ協奏曲 ホ短調 Op.85

イギリスの大作曲家エドワード・エルガー（1857－1934）の代表作のひとつであるこのチェロ協奏曲は1919年に書かれている。この時期彼はすでに人生の秋を強く感じるようになっていた。それまでの価値観を根底から揺さぶった第一次大戦の衝撃や、愛する妻の健康状態が思わしくないことなどがその背景にあったようだ。この作品の仄暗い叙情にはそうした当時の彼の心境が映し出されているかのようだ。

4つの楽章からなり、第3楽章以外には、孤独な心情を語るモノローグ風のチェロ独奏のレチタティーヴォとカデンツァが序奏として置かれているのが特徴的だ。**第1楽章**（アダージョ～モデラート）はそのレチタティーヴォに始まる。続く主部は拠り所のない心を表すようなヴィオラの主要主題に始まり、過去を夢見るような長調の中間部が挟まれる。そのまま続く**第2楽章**（レント～アレグロ・モルト）はまずチェロ独奏のピッツィカートのレチタティーヴォと主題を暗示する走句が繰り返され、無窮動風の主部となる。**第3楽章**（アダージョ）は深い叙情に満ちたカンタービレ楽章。**第4楽章**はまず管弦楽が第1主題を予示した後（アレグロ）、チェロ独奏のレチタティーヴォとカデンツァ（モデラート）を挟んで、ソナタ形式の主部（アレグロ・マ・ノン・トロッポ）となる、力強さの中にも暗い幻想味が漂うフィナーレで、最後に第3楽章の副主題と曲頭のレチタティーヴォが回想されて終わる。

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18

セルゲイ・ラフマニノフ（1873－1943）の代表作であるこの協奏曲は、ロシアの民族性、ロマンティックな表現、ピアニスティックな名技性が一体化したいかにも彼らしい作品である。伝えられてきた話では、1899年に彼がピアニストとしてロンドンで成功を収めた際に当地の団体から協奏曲の作曲を依頼されたものの、当時の彼は第1交響曲の初演失敗が原因でスランプ状態にあり、この作品の筆を進めることができず、精神科医ダーリ博士の暗示療法でやっと自信を回復して

1901年に曲を完成にこぎつけた。

もっとも最近では、このエピソードには誇張と作り話が入り混じっているとする説も浮上している。それによると、彼が多少の精神的な不安定さゆえにダーリ博士の治療を受けたことは事実だが、決して作曲ができないほどの極度のスランプに陥っていたのではなく、交響曲第1番の失敗もさほど尾を引いていたわけでないという。真偽はともかく曲は1901年秋にモスクワでラフマニノフ自身の独奏で初演されて大成功を収めた。

第1楽章(モデラート)はピアノ独奏の重い和音による序奏の後、暗い情熱的な第1主題とロマン的な第2主題を持った主部が劇的な発展を繰り広げる。**第2楽章**(アダージョ・ソステヌート)は甘美な情感を湛えた緩徐楽章だが、中間部は動的な変化に満ち、ピアノも細やかな動きを見せる。**第3楽章**(アレグロ・スケルツァンド)は力感に溢れる主要主題と表情豊かに息長く歌われる副主題が起伏ある展開を繰り成す鮮やかなフィナーレである。

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第4番 ト短調 Op.40

セルゲイ・ラフマニノフ(1873－1943)が残したピアノ協奏曲の最後の作となったこの第4番は彼の人生の転機に生み出された。構想はロシアで活動していた1914年頃に遡るが、1917年ロシア革命期の混乱を避けて母国を離れたことによって作曲は中断する。彼がこの協奏曲に立ち戻るのはようやく1924年のことで、彼と同じくロシアから亡命していた作曲家・ピアニストのメトネルの勧めがきっかけだった。一応の完成をみたのは1926年で、初演は翌年フィラデルフィアで作曲者自身のピアノでなされたが、その後曲が長すぎると判断したラフマニノフは主に第3楽章を中心に改訂を施し、さらに1938年にも大きな改訂を施して最終稿が完成した。今回の演奏もこの最終稿(第3稿)が用いられる。有名な第2、3番の協奏曲に比べると和声的に錯綜した響きが際立つようになり、また打楽器群が多く加わるなど、亡命後の彼の新たな境地を窺わせた作品となっている。

第1楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ[アッラ・ブレーヴェ])は勢いある管弦楽の導入に続いてピアノが力強い第1主題を奏する。第2主題は叙情的ながらもどこか複雑な響きを持つ。**第2楽章**(ラルゴ)は憧憬的な主題による緩徐楽章。中間部では突然奇かすような楽想が出現する。**第3楽章**(アレグロ・ヴィヴァーチェ)は活気に満ちた主題を中心とするラプソディックなフィナーレである。

ムソルグスキー(ヘンリー・ウッド編曲):組曲『展覧会の絵』

ロシア民族主義の作曲家モデスト・ムソルグスキー(1839－81)の代表作であるこの『展覧会の絵』は1874年にピアノのための組曲として作曲された。きっかけは前年に死去した友人の美術家ガルトマン(西欧風にはハルトマン)の回顧展にあった。ムソルグスキーは、そこに出品された絵やスケッチに霊感を得て、絵の印象から自由に想像力を翔かせてこの曲を書き上げたのである。ロシア風ともいえる力強い筆致によるいかにもムソルグスキーらしい作品で、展覧会場を歩く様を表す「プロムナード」と、それぞれ絵画やスケッチを表現した10曲の小曲から構成されている。

本日演奏されるのはロンドンのプロムナード・コンサート(通称プロムス)の創始者でもあるイギリスの指揮者ヘンリー・ウッドによる管弦楽編曲版である。この組曲の管弦楽版というと1922年にフランスの作曲家ラヴェルが編曲したものが広く知られているが、ウッドの編曲版はそれに先立って1915年に作られている。ラヴェル版とは全く趣が異なり、多数の打楽器やオルガンを含む大編成のうちに各曲の描写的な性格を誇張するかのように際立たせたもので、時におどろおどろしく、時に滑稽にといった、カリカチュア風のパロディ精神に満ちた編曲となっている。

なお原曲では前述の「**プロムナード**」は冒頭の他、曲間にも幾つか挟まれるが、このウッド版では曲間のものはカットされている。続く10曲は、地下の小人が不器用に動く様を表した「**グノームス**」、吟遊詩人が物悲しい歌を歌う「**古城**」、子供達の喧嘩を描く「**テュイルリー**」、牛車が通る情景に虐げられた農民の姿を重ねた「**ビドロ**」、生き生きした音描写による「**殻を付けた雛の踊り**」、金持と貧乏の2人のユダヤ人を対照的に表現した「**ザムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ**」、市場の女達のお喋りを描く「**リモージュの市場**」、暗い地下墓地を描写した「**カタコンベ、ローマの墓地**」、魔女ババ・ヤガーを活写した「**鶏の足の上に立つ小屋**」、壮麗な「**キエフの大門**」からなる。

チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 Op.64

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840－93)の後期の所産であるこの交響曲第5番は、1877年の第4番から10年以上の間をおいて1888年に生み出された後期の傑作で、中期の第4番を引き継ぐかのように、運命との闘いが確かな構成のうちに表現されている。曲頭クラリネットに示される暗い旋律が運命を象徴する循環主題として全楽章に現れ、闘争→勝利という全体の構図を際立たせている。初演は1888年11月ペテルブルクで、チャイコフスキー自身の指揮によって行われた。

第1楽章(アンダンテ～アレグロ・コン・アニマ)は序奏の冒頭に前述の循環主題が示される。感情の起伏に富む悲劇的なソナタ形式楽章である。**第2楽章**(アンダンテ・カンタービレ)は息の長いホルンの主題に始まるロシア的な叙情に溢れた緩徐楽章だが、中間部と終結部に循環主題が劇的に出現する。**第3楽章**(アレグロ・モデラート)は優美なワルツだが、ここでも最後にひそやかに循環主題が現れる。**第4楽章**(アンダンテ・マエストーソ～アレグロ・ヴィヴァーチェ)では朗々たる長調の循環主題の後、劇的な闘争が繰り広げられるが、最後は輝かしい勝利に至り、第1楽章第1主題も明るく高らかに再帰する。

RMF＆山田和樹 グローバル プロジェクト

世界で活躍するローム ミュージック フレンズ*のひとりである指揮者・山田和樹とローム ミュージック ファンデーションが立ち上げた＜RMF＆山田和樹グローバル プロジェクト＞は、日本だけでなくグローバルに活動を展開し、音楽文化の普及と発展を目指しています。固定観念に囚われない新たな発想を生み出す山田和樹と共に、日本の音楽家が今よりも更に世界中で活躍する未来を作ります。

*ローム ミュージック ファンデーションが音楽家育成事業で関わった音楽家。（2025年6月現在：5,121名）

「山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団 日本公演」における取り組み

●RMFシート

学生の皆様に良い音楽を聴いていただくため、特別割引席をご用意しています。チケット代の負担軽減を目的としたRMFシートを活用することで、学生の皆様はS席チケットを4,000円でお求めいただけます。

●日本人若手音楽家の海外オーケストラへのゲスト参加

日本人の若手音楽家に成長の機会を提供するため、海外のオーケストラと共に演奏する機会を作っています。
オーケストラのゲストメンバーとして福田麻子（ヴァイオリン）が、またアシスタント指揮者として伊東新之助が、現地リハーサルから日本ツアーまで参加いたします。

福田麻子（ヴァイオリン）
ローム ミュージック ファンデーション 2022, 2023年度奨学生

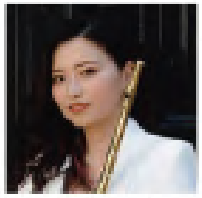
伊東新之助
（アシスタント指揮者）

●ローム ミュージック セミナー2025 ＜山田和樹・指揮クラス＞

ツアー期間中に、山田和樹による指揮セミナーをバーミンガム市交響楽団のメンバーとともに実施します。
2025年7月2日（水） 音楽の友ホール

海外での展開 モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団 定期公演における取り組み

山田和樹が指揮するモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団定期公演のソリスト（フルート）を選出するオーディションを実施し、石井希衣が現地公演に出演いたしました。



石井希衣（フルート）

山田和樹指揮モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団 定期公演

2025年6月8日(日) 18:00開演 Auditorium Rainier III （モナコ公国）
曲目　武満徹：ウォーター・ドリーミング
(Takemitsu Toru: I Hear the Water Dreaming)

✦✦✦✦✦ 2024年度の取り組み ✦✦✦✦✦

2024年モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団日本公演でのリハーサル風景。ツアーに帯同したアシスタント指揮者・岡本陸と、山田和樹。

2024年5月に開催した「山田和樹指揮モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団日本ツアー」には、オーケストラのゲストメンバーとして千葉水晶（ヴァイオリン）、福田廉之介（ヴァイオリン）が、アシスタント指揮者として岡本陸が参加しました。
福田廉之介はツアー後に開催されたオーディションを経て、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団に入団しました。

ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。
「人のいるところには夢がいる」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、
人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。
これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。

アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆◆

＜年間サポート＞

【個人サポーター】

朝妻 幸雄　M.I.　岩村 和央　上村 憲裕　Y.E.　K.O.　大原 志津子　片山 由美子　K.K.　北村 眞　R.K.
新貝 康司　M.T.　R.T.　武田 健二　伊達 朱実　田中 治郎　東條 Lilly　苫米地 英人　K.N.　児子 弥生
S.N.　長谷川 智子　樋口 美枝子　平山 美由紀　藤野 眉臣　細沼 康子　松尾 芳樹　真野 美千代
安田 牧子　山川 和子（匿名希望10名）

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社　株式会社青林堂　三井住友カード株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント　きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション　ライフプラン株式会社

＜千住真理子に「花を贈ろう！」プロジェクト＞

石坂 雅美　北村 眞　城戸 健二　桑原 仁志　小森 桂子　佐藤 亨　宍倉 剛　田中 治郎
H.H.　道又 利　村上 晃彦　横田 邦子（匿名希望7名）

＜ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート＞

石坂 雅美　K.I.　K.K.　Y.K.　佐久間 隆弥　Rimiko　中尾 圭吾　T.H.　樋口 美枝子　K.F.
細沼 康子　M.H.　M.M.　水足 久美子　水足 秀一郎　ロロコミ（匿名希望10名）

＜ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート＞

江田 明子　T.O.　K.K.　佐久間 隆弥　Rimiko　N.S.　M.T.　平山 美由紀　細沼 康子
M.M.　柳瀬 美佐子　ロロコミ（匿名希望9名）

2025年6月16日現在　敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトをご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720
（平日11:00～17:00 年末年始を除く）

ローム ミュージック ファンデーションの事業について

音楽文化の発展

奨学援助
音楽を学ぶ学生に対して奨学援助を行い、若い人たちの学ぶ環境の充実に取り組んでいます。

ローム ミュージック ファンデーション スカラシップ コンサート
現役または奨学金給付終了直後の奨学生によるコンサートを開催しています。

RMF&山田和樹 グローバル プロジェクト
日本の音楽家がより広く世界中で活躍する未来を作るための指揮プロジェクトです。

ローム ミュージック セミナー
ローム ミュージック フレンズが講師となり世界を舞台に活躍する音楽家を育成するセミナーです。

音楽文化の普及

ローム ミュージック フェスティバル
ローム ミュージック フレンズが一堂に会す豪華フェスティバル。ローム・スクエアでは、関西の中学・高校の吹奏楽部によるコンサートも行っています。

ローム ミュージック チャンネル「KyotoxClassics」
京都の名所からローム ミュージック フレンズが音楽をお届けするコンサートを映像配信しています。

その他の事業や詳細については、
ローム ミュージック ファンデーション
公式WEBサイトをご覧ください。

https://www.rmf.or.jp/jp/

写真クレジット：★…松尾洋一郎、★★…樋口朋、他…佐々木卓男